

令和 6 年度の学校評価(年度末評価)

本年度の 重点目標	ア 感染症対策、食育、医療的ケア、防災防犯等、健康と安全に配慮した学校づくりを進める。 イ 自立と社会参加に向けて、一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を追求する。 ウ 主体的、継続的に研修に取り組み、専門性の向上と授業改善を図る。 エ 地域の教育資源や外部の専門家と連携し、社会に開かれた教育課程をPDCAサイクルで実施する。 オ 全教職員の創意と工夫で多忙化を改善し、教育活動の充実を図る。		
項目	重点目標	具体的方策	評価結果
小 学 部	学びの楽しさを通して、興味・関心や人との関わりを広げ、主体的、自立的な生活に必要な力を育む。	・児童一人一人の教育的ニーズを把握し、目指す姿を保護者と共通理解した上で、支援・指導を行う。 ・児童が楽しみながら主体的に取り組めるよう教材・教具や支援方法を工夫する。	・児童の個別目標を保護者と共通理解し、児童の成長を喜び合う気持ちを共有しながら支援・指導を継続した。 ・6名の児童が各小学校で居住地校交流を実施し、地域との関わりが増した。 ・「UDL！児童が気持ちを伝えるための教育実践」として、小学部教職員全員が外部振興財団より楽器などの助成を受け、教材・教具や支援方法の工夫を凝らした。
中 学 部	生活に結びつく学力を育てる。	・授業改善のアプローチを教職員間で共有し、生徒の「わかる」「できた」「もっと知りたい」につなげていけるように授業実践に努める。 ・学習意欲を喚起する個々への支援方法、授業の進め方、環境づくりなどを考えることで、よりよい授業実践に努める。 ・教職員間で連携をとり、「主体的・対話的」で深い学びの実現に向け授業実践に努める。	・身近なことや流行を取り入れた題材を活用することで、生徒の興味や関心を引く授業実践を行うことができた。 ・生徒の実態に合わせた教材や支援具などを工夫し、学びやすい学習環境づくりに努めることができた。 ・教職員間や教師、生徒間の対話にとどまらず、生徒同士の対話を推進し、自分の思いを相手に伝える力をつけることができた。今後は相手の思いを受容できる力を身につける授業実践に努める。
高 等 部	卒業後の自立と社会参加を目指した授業実践に取り組む。	・生徒のよさや可能性を引き出し、できることを増やす授業実践に取り組む。 ・生徒個々の教育的ニーズや支援方法を教職員間で共有し、指導に生かす。	・タブレット端末やテレビモニター、スイッチ教材を活用した取組が今年度も多くの学習集団で実施された。今後も支援具の工夫などにより生徒の可能性を引き出す授業実践に取り組む。 ・保護者や施設職員、進路希望先職員との話し合いの結果を教職員間で共有し、日々の指導に生かすことができた。今後も確実な連携に努めたい。
訪問教育	人や物と関わる力を育てる。	・児童生徒が心身ともに安定して授業に臨めるようにする。 ・一人一人の興味・関心、生活年齢や発達段階に応じ、充実した授業ができるようにする。 ・学校行事への参加、友達と関わりあう授業、訪問教育交流会など、個に応じた形で学習活動を進める。	・担当者会で児童生徒の様子を報告し、情報を共有して確認しあうことができた。 ・学校勤務の時間を利用して、授業内容や保護者対応などを教職員間で相談することができた。 ・オンラインを利用して訪問内での関わりをもてた。 ・学校自宅間でのオンライン合同学習を児童生徒の実態に合わせた方法で実施できた。訪問教育の様子を全教職員に伝え、児童生徒同士の関わりにつなげていきたい。
総 務	学校の教育活動作品発表などを通じて地域に発信しつつ、係の多忙化の改善を図る。	・参加する作品展を精選する。 ・出品を搬入しやすい平面作品や優秀作品に絞る。	・搬入・搬出・額装等が必要となる作品展について、各教科から優秀作品1点に絞るなど工夫した。運搬の負担は大きく減らすことができ、多忙化の改善にもつながった。 ・他の作品展への出品が重なるなど出品作品を確保することが難しかった。次年度以降、作品の制作に応じた出展計画としたい。
教 務	学習指導要領を踏まえた指導の充実を図る。	・年間指導計画がPDCAサイクルで実践し、検証、改善をする。 ・新学習指導要領を踏まえて学習活動及び評価の充実を図る。	・教科会や領域会で年間指導計画の新書式や運用の仕方について検討し、挙げた意見を集約した。意見を受けて様式の一部を変更し、記入例の見直しを行った。今後は記入したものを活用し、PDCAサイクルで授業実践が行うことができるように周知していく。 ・3観点に配慮した評価を周知し、個別の指導計画の確認を実施した。引き続き、継続して行っていく。
生活指導	・児童生徒の心の健康状態を把握する。 ・防災対策を強化する。	・心の健康状態を把握するための対策を検討、実施する。 ・防災についての情報を児童生徒及び職員に周知する。 ・防災対策を見直す。	・心のアンケートの実施とSC及びSSWについて周知した。悩みがある児童生徒への対応など、アンケート実施後の仕組みを具体的に必要がある。 ・避難訓練では、新たな避難場所を設定したり経路に模擬危険箇所を設定したりし、より有事を想定して取り組んだ。防災安全教室を実施し、防災についての情報を児童生徒及び教職員に周知した。

研 修	教職員が、研究や研修に取り組みやすい環境を整える。	・全校研究のグループや進め方などに幅を持たせ、教職員が主体的かつ効率的に研究に取り組めるようにする。 ・研修案内などを見やすく掲示するとともに、手引などのデータを校内ネットワークに保存し、閲覧しやすくする。	・全校研究は、グループの編成や研究会の実施回数に幅をもたせて取り組みやすくするとともに、提出物を減らすなど教職員の負担軽減を図った。前向きに研究に取り組めるグループが多かった。 ・研修や各種手引に関する案内については、教職員から複数の問い合わせがあるなど、有効に活用されていた。
保健体育	児童生徒が給食を楽しみ、安全に食べることのできる環境を整える。	・摂食コーディネーターによる巡回での支援やコーディネーター会での食形態の検討など児童生徒が安全に食事を楽しむことのできる環境を整える。 ・給食週間などの行事を通して食育の充実を図る。 ・感染対策について検討し、周知する。	・摂食コーディネーターの巡回や校内研修を実施し、摂食指導についての疑問点を解消することができた。食形態や給食についてコーディネーターだよりを作成し、情報発信した。感染対策をしながらも友達や教職員との食事を楽しむ姿が見られるようになってきている。給食週間などの行事を通して食事に親しむ様子も見られた。
進路指導	進路選択や卒業後の生活に役立つ情報を児童生徒や保護者、教職員等と広く共有する。	・外部の講師を招き、障害者を取り巻く社会情勢や進路選択に役立つ情報を提供する。 ・近隣の事業所や関係機関との連携を深める。	・外部講師を招いた進路講話会やPTAに向けた進路研修会、教職員に向けた校内研修など、進路に関する情報を発信することができた。 ・障害者就労・生活支援センターと連携して卒後支援を定期的に行った。卒業生が安心して働くことができるように、定期的な面談や事業所への助言等の支援を行った。
図 書 視 聴 覚	図書へアクセスしやすい環境づくりを目指す。	・本棚の空間に余裕をもった配架を行い、本を探しやすく、取りやすくする。 ・本の更新や修繕を図る。	・館内の本を段階的に除架し、本棚の空間に余裕をもった本の配架を行った。年間貸出冊数は前年度より1,285冊増加した。図書の利用調査データに基づき館内のレイアウト改善を行い、教科に関する図書の利用率を上げた。移動図書館の実施や、図書回収システムを工夫し、蔵書の回転率を上げた。今後も、図書へのアクセスしやすい環境作りに取り組む。
情報教育	・教職員が新しい情報機器とシステムを理解し、一人で操作できるようにする。 ・情報機器を使った授業を円滑に行えるようにする。	・新しい情報機器とシステムを学校の教職員が操作しやすいようにマニュアル化する。 ・校務支援システムや研修等を利用し、校内の教職員に使用方法を分かりやすく周知する。	・新しい情報機器、情報システムの操作に教員が慣れつつある。 ・資料を作成し、校内のWeb掲示板で教職員に周知することで情報の共有を行うことができた。
自立活動	一人一人の教育的ニーズに応じた支援や自立活動の指導ができるよう、情報の共有に努める。	・関係する分掌と連携を取りながら、児童生徒、教職員が相談、利用しやすい環境を整える。 ・校内研修や外部専門家活用事業を活用した相談活動を行い、広く校内に伝達する。	・外部講師による各種相談、教職員研修を実施し、教職員の専門性を高めることができた。さらに、校内の専門性の高い教職員へ相談しやすい環境づくりを整えることができた。 ・校内の支援機器の使用方法を共有化し、より多くの教職員・生徒が使いやすい環境づくりをしていきたい。
教育支援	地域の学校や校内への支援を継続的にを行い、教育支援機能の向上を図る。	・巡回相談や支援・指導検討会では十分な情報提供と丁寧な相談活動を実施する。本校の研修会の内容を充実させる。 ・校内外に、支援具や支援方法等を紹介する。	・昨年度よりも内容を充実した校外向けの研修会は多くの教職員の参加があった。地域の教職員のニーズに合ったものと認識することができた。これからは研修会の内容を深めることにも取り組んでいきたい。 ・ミニ学習会、教育支援部ニュース、参考書籍の紹介、心のケア研修会など、校内に向けての支援も充実させることができた。教育支援部の広報活動にも力を入れたい。
学校関係者評価を実施する主な評価項目について		・児童生徒の健康管理や感染症対策を優先に、安心安全な教育環境を整える。 ・児童生徒が主体的に学ぶことを前提とし、学習環境を整える。 ・教職員が研鑽を積むことができるような環境を整える。 ・積極的な校外学習計画や外部専門家の助言を得る機会など、社会とつながる環境を整える。 ・引き続き業務の精選を検討するとともに、教職員の工夫と協力で業務負担を改善していく。	
総 合 評 価		・教室環境や健康管理について、教職員全体が心がけた。感染症報告はあったものの、校内での二次感染はほぼ見られなかった。 ・自作教材やタブレット端末でのアプリの活用など、児童生徒の興味・関心を引き出す工夫が見られた。それらを校内研修で学び合い、授業実践に生かされている。 ・居住地校交流や交流校との交流が計画どおりに行うことができ、児童生徒にとって関わりを楽しむことができている。 ・南海トラフ地震臨時情報が検討されるなど、巨大地震に対する緊張感が高まっている。避難訓練や引き渡し訓練などもより有事に備えた対応や減災対策の検討を進めたい。	